

令和4年度 谷津高齢者相談センター事業計画書 (社会福祉法人慶美会)

重点運営事項

重点運営事項	現在の取り組み	良い点・悪い点とその理由	課題	4年度の取組計画	具体的な取り組み
1 地域ケア会議の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域会議は1回、コロナの状況に合わせて開催した。2回目も予定し準備していたが、出席者の多くが地域の方であるため、ZOOMでの開催はできなかった。</li> <li>・テーマはコロナ禍で相談の増加の傾向にある認知症の発見が遅れやすいケースをもとに話し合った。新しい生活様式の中で変化している高齢者をとりまく状況や課題を皆で共有した。</li> <li>・介護予防自立支援会議は2ケース、ZOOMでの開催となった。包括1事例、委託事業所から1事例を検討し、欠けている視点についてアドバイスをいただけ、ケアマネジャーの資質向上につながった。</li> <li>・個別ケア会議は1事例開催し、お互いの役割や見守り方法について、共有した。</li> </ul>	<p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染予防に気をつけ、人数を絞って開催したが、グループワークも活発に意見交換ができた。</li> <li>・参加者からもまずは地域ケア会議が開催でき、コロナで縮小したり、中止になっている活動の弊害などを話あうことができて良かったという意見が多くあった。</li> <li>・自立支援会議で事例を提出したケアマネジャーからも専門的なアドバイスがもらえたことや事例を書面にまとめたり、わかりやすく発表するなどの機会も勉強になったと感じてもらえた。</li> </ul> <p>悪かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域会議は協議体とのすみ分けが難しく、会議で話し合った内容がつながっていくイメージを持たせることが難しい。</li> <li>・個別ケア会議がケアマネの困難ケースの支援に浸透していない。</li> <li>・コロナ禍で圏域会議に呼べる人数に限りがあり、地域課題や情報共有が万遍なく行えないため人により持っている情報に差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域会議で話し合う内容の選定。事例をもとに課題を共有してきたが、課題が大きく変わらないため、会議がマンネリ化する。</li> <li>・協議体とのすみ分けが難しい。</li> <li>・個別ケア会議を利用することのメリットがケアマネジャーに伝わっておらず活用されていない。</li> <li>・参加者を固定していないため多くの方が参加できるが、会議で検討したこと周知が図れない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域のケア会議は新型コロナの感染状況を踏まえ、開催を市と協議して決定する。開催時は感染予防に気をつけながら、人数を絞り内容を工夫して開催を目指す。(年2回)</li> <li>・会議がネットワーク構築に役立つような話し合いを考え、地域で起こっていることの声を吸い上げていく。</li> <li>・個別ケア会議は随時行っているが、タイムリーに開催できるようケアマネジャーに負担感が無い形で考えていく。</li> <li>・地域ケア会議で話し合ったことを機関紙でとりあげ、関心を持っていたき、多くの関係機関や地域の方に周知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度も圏域の会議は年2回開催できるように準備を進めていく。1回目は身寄りのない方の金銭管理や施設入所の相談増加の傾向を踏まえて、成年後見制度をテーマに準備している。地域住民代表の方には身寄りのない方で心配なことや困ったことを事前に聞き取り、会議で話し合えるように検討している。</li> <li>・構成メンバーについて会議のテーマに合わせ、新たな関係を構築していくのに必要な町会や商店、ボランティアなどを検討していく。</li> <li>・圏域のケアマネジャーにも個別ケア会議の活用をPRし、困難ケースの相談時に会議を利用して話し合いができるように進めていく。</li> <li>・介護予防自立支援会議は圏域のケアマネジャーから2事例、提出してもらい、参集でもZOOMでも対応できるように準備する。</li> <li>・高齢者相談センターの機関紙に地域ケア圏域会議の様子を掲載し、出席していない方にもどのような話し合いをしているのか等周知する。</li> </ul>
2 生活支援体制整備事業に関する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き担い手募集の掲示を行うことと現在の担い手の方への声掛けに加え、町会へも声掛けした。</li> <li>・パークタウンでのんとうむしイベントをきっかけとし、新しいんとうむし体操のサークル立ち上げを支援した。</li> <li>・包括主催の集いは、感染予防に努め内容も体操を中心に行った。</li> <li>・谷津支部と一緒に介護保険、権利擁護、認知症、介護予防の出前講座や出張相談行う準備を進めたが、コロナで延期になった。単独では谷津公民館で福祉用具の展示と出張相談を行った。</li> <li>・第2層協議体は第2層生活支援コーディネーターとともに2回開催した。内容はコロナ禍でのサロン運営についてや谷津のつながりについての社会資源を出し合い、マップの作成をした。</li> </ul>	<p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パークタウンの新しいんとうむし体操はもともとパークで活動していた転倒予防体操推進員さんらの意欲もあり、UR千葉西住まいセンターの後押しもあり、立ち上げの後方支援がよい形で実った。地域の方が主となり運営がスムーズにいくよう支援できた。</li> <li>・包括主催の集いはコロナ感染の状況を踏まえて内容の見直しを行い、体操中心に皆の興味がそがれないよう、新たにポッチャや民間会社の講師を招いた音楽を主にした体操など取り入れた。</li> <li>・地区社協と共催で包括、生活支援コーディネーターと一緒に地域の高齢者の身近なところで講座の開催を準備できた。結果的には延期となったが、社協の関係者との顔の見える関係づくりが進んだ。</li> <li>・会議の中で出席者からはコロナになって人とのつながりの大切さが身をもって理解できたという声も多く、今止まっている活動やあったらいいなと思う活動を可視化できた。</li> </ul> <p>悪かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな担い手の発掘に対するアプローチは現在活動されている方の人脈に頼るところが大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響で地域の活動が限られてしまい、出かける場がなく人々の交流が止まっている。</li> <li>・ZOOMなどの活用は高齢者にはハードルが高い。</li> <li>・現在の担い手に役割の集中や高齢化などの実態があり、今後、新たな担い手が必要。</li> <li>・第2層協議体(助け合いの輪)の周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・てんとうむし体操の担い手の交代ができず閉じてしまった谷津7丁目の地域の新たな体操教室の立ち上げ支援を行う。</li> <li>・高齢化率の高い地区を中心に出張相談会や健康講座を開催する。</li> <li>・地域ネットワークの構築と進化。今まで繋がりが持てなかったり、関わりが薄かった方や団体と顔の見える関係が構築できるよう、働きかけていく。</li> <li>・第2層協議体の開催を年2回行い、谷津の地域課題解決に向けた話し合いを進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的に活動ができる教室を目指し、地域住民の意見をもとに谷津7丁目地区の民生委員やマンションの理事会や推進員と連携を図り立ち上げを支援していく。</li> <li>・パークタウンや谷津4丁目のマンション集会所を起点に普段地域活動に参加していない高齢者にも参加していただけるよう、民生委員、マンション管理人と連携を図る。</li> <li>・URコミュニティと共同で高齢者が関心を持っていることをテーマにした講座と相談会の企画を検討し、進めていく。</li> <li>・地区社協谷津支部と協働で住民に近い場所で健康講座や相談を受けられる機会を作る。</li> <li>・奏の社地区とのネットワークの構築のため、パートナーズとマンション管理事務所に機関紙やチラシ、講座の案内などしていく。</li> <li>・地域の薬局や病院、商店などと引き続き関係性の構築に努める。</li> <li>・昨年度の協議体で把握し可視化された社会資源と課題について、協議体の中で話合っていく。地域ケア会議でも課題としてだされていた認知症の早期発見や協議体で今止まっている資源として挙がっていたオレンジカフェ、について話し合いを進めていく。</li> </ul>
3 認知症総合支援事業に関する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の相談件数の増加・多様化から認知症地域支援推進員と連携し、受診や対応、介護保険、施設入所の相談にのった。</li> <li>・認知症サポーター養成講座の開催。住民等からの依頼だけではなく包括の主催で講座を開催するなど、積極的に認知症の啓発を行った。他圏域の学校で開催された講座に参加した。</li> <li>・9月のアルツハイマー月間の啓発活動では、図書館を訪れる方の関心を引く装飾をこころがけ、地域の高齢者にも得意な分野での装飾品の協力をいただいた。</li> </ul>	<p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャラバンメイトの地区会では谷津圏域でも小、中学校の講座が開催できるよう、内容について勉強会を実施し、不安なところや内容の確認が行えた。</li> <li>・積極的に養成講座の開催ができ、土曜日開催も新たに行ったことで、今までと違う年齢層の参加があった。サポート事業所の追加もあった。</li> <li>・認知症の啓発活動の一環として、オレンジドレスアップの機会を効果的に使えた。図書館を訪れる親子も関心を示してくれ、好評であった。また、地域の高齢者も力を発揮し、楽しんでこの企画に参加して下さったことも良かった。</li> </ul> <p>悪かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設対象にZOOMでの認知症サポーター養成講座を計画したが日程調整できず実施に至らなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で地域のサロンや個人のサークル等の休止で認知症の早期発見ができていない。また、情報も入りにくくなっている。</li> <li>・認知症の対応など地域住民向けの講座の開催がなく、人形劇の活用も難しい。</li> <li>・認知症カフェが休止しており、再開の目途も立っていない。認知症の方、家族の気軽に行ける場所がなく孤立したり、気分転換ができる場がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍における認知症カフェの実施に向けて認知症の本人、家族が集える居場所作り</li> <li>・キャラバンメイト地区会の実施</li> <li>・認知症サポーター養成講座や地域のサロン等での認知症の啓発</li> <li>・チームオレンジの立ち上げに向けてネットワークの構成を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2層協議体とも連動して検討していくが、地域課題でもある認知症の方や家族の居場所が休止になっているため、地域住民とアイデアを出し合って小規模カフェの計画をしていく。</li> <li>・地域のキャラバンメイトの協力のもと、小規模な家族の会を企画していく。参加者の声を聞きながら、今後の方向について検討する。</li> <li>・キャラバンメイト地区会では、今後、幅広い世代に向けて講座の実施を行っていくため人形劇の活用も検討していく。</li> <li>・認知症の早期発見が難しくなっている状況を踏まえて、地域での啓発活動を続けていく。地域のサロン等ではミニ講座や情報提供を引き続き行う。認知症サポーター養成講座を感染状況に応じてZOOMでも開催できる体制をつくる。</li> <li>・圏域の事業所にチームオレンジメンバーとして活動していただけるよう呼びかける。</li> </ul>